

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立網野北小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 規範意識を醸成し、思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 3 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 4 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。		○「未来を拓く学校づくり」推進事業における研究を進め、焦点化した非認知能力におけるギミックブラッシュアップシートによる全担任の授業研究会を行うことにより授業改善に取り組んだ。 ○全学級で ICT 機器を活用した授業を実施した。オンラインの配信型の課題だけでなく、Team やロイロノートに於ける他者参照を取り入れる等授業での ICT 機器の活用が進んだ。 △不登校(傾向)児童や家庭に対し関係機関や専門家と連携を図り、児童や保護者の思いを大切にした支援を更に進める。 △学年があがるにつれ自己肯定感の低下がみられる。		1 網野学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具現化を図るため、他の保園小中学校一貫した教育を推進するとともに、全教職員が学校運営に参画する。 2 「児童が主体性とそうぞう力を発揮する学校」「児童のよさがつながる学校」を目指し、児童にとって居場所のある魅力ある学校づくりをすすめる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
学校教育指導の重点、 諸計画及び各学園の重点等、 保幼小中一貫教育として	教育課程 学習指導	1 「未来を拓く学校づくり」推進事業における研究において、非認知能力を教職員と児童が共有し、効果的なギミックや仕組み方を通した授業研究を行う。 2 学習意欲を喚起する授業展開とねらいが明確で「わかる・できる授業」を目指し、身に付けた知識・技能を活用し考え、表現する中で、児童が学びあう授業研究を行う。 3 すべての教科等に探究の各プロセスを取り入れ、学びのスキルを向上させる。 4 多様な学習形態や学力補充・家庭学習、個の興味や理解に応じた学習を更にすすめるために ICT を積極的に活用する。 5 単元を通して児童が学習の成果や自分自身の成長したことに基づき、次の学習や学びに向かう意欲につなげられる振り返りを通した授業改善に取り組む。	○教職員と児童が非認知能力の重要性を意識し、共通理解を深める機会が増えた。 ○粘り強さや協働性、自己肯定感を育む工夫が授業に取り入れられた。 ○ねらいを明確にし、学び合いの場を意識した授業が増加した。 ○児童が課題を設定し、自分で調べ、まとめる力が伸びた。 ○児童が自ら調べ、学びを深める活動が増えた。 ○振り返りの活動が定着しつつあり、自己評価力が向上している。 △非認知能力の具体的な評価方法が明確でなく、成長の実感を児童や保護者とのように共有するかが課題。 △児童の学び合いの質を高めるための支援方法にばらつきがある。 △探究活動の進め方に学年差があり、統一的な指導の枠組みが必要。	・教育活動の在り方が変化していることが実感される中で、児童の学びをより豊かにするための取組が進められている。特に ICT の活用は、今後の児童の学びや生活に必要不可欠であり、積極的に活用することでスキルの獲得につなげられる。 ・一方で、タブレット学習の増加に伴い、「書く」活動が減少していることへの懸念があり、書く力を育む機会の確保が求められる。
	生徒指導	1 異年齢活動の充実を図り、児童が自ら気づき主体的に活動することで、達成感や充実感を感じ合い自他ともに大切にする安心・安全な「居場所づくり」に努める。 2 生徒指導部会・教育相談部会、いじめ防止組織の中で、児童の姿を共有し、児童の変化に基づき見逃さない校内体制を構築する。 3 気になる児童については、積極的にアセスメントを行い、なぜそのような状態に至ったのか、児童の示す行動や背景や要因、情報を収集して分析し、明らかにする。	○異年齢交流を通じて、児童同士の関係性が深まり、安心感が生まれた。 ○児童が役割を持ち、自信を持って活動できる場面が増えた。 ○児童の変化に基づきやすい仕組みが整備され、早期対応が進んでいる。 ○児童の背景や要因を踏まえた対応が進み、支援の質が向上した。 △さらに細やかな児童理解を進めるため、情報共有の方法を見直す。 △アセスメントを継続的に実施し、支援の改善を図る仕組みを整える。	・児童への肯定的な評価を継続し、行動の変容につなげる取組がなされている。また、児童数が少ない中でも、一人一人が活躍できる場面を設け、自己肯定感を高める教育が推進されている点は成果といえる。

健康（体育）・安全	1 積極的にチャレンジし、自らの成長につながっていることを実感する指導を進める。 2 基本的な生活習慣に関する児童の実践的な態度の育成を図る。	1 個に応じた目標や短期（各単元）目標を設定させ、目標児童が達成感を得られる取組を仕組む。 2 振り返りの中で、児童の相互評価や家庭との連携、指導者による肯定的な評価による価値付けを行う中で、自他の成長に気づき次への意欲を高める。 3 児童の成長の基盤となる生活習慣について、主体的実践的な態度の育成に向けた取組の充実を図る。	○目標を意識した学習が促進され、児童の学習意欲が向上した。 ○児童の相互評価を通じて、他者の学びを認める姿勢が育まれた。 ○家庭との連携が進み、児童の学習への関心が高まった。 △目標設定を児童一人ひとりに合ったものにする工夫が必要。 △目標の達成度を具体的に評価し児童にフィードバックする方法の充実が求められる。 △教職員間で振り返りの実施方法について共通理解を深める必要がある。	・児童が目標をもち、工夫しながら主体的に取り組んでいることが評価できる。さらに、家庭との連携を図りながら学びを深める取組が進められており、今後の更なる発展が期待される。
特別支援教育	1 児童一人ひとりの実態に応じた適切な支援を行う。 2 特別支援コーディネーターを中心とした組織体制の充実を図る。	1 すべての児童にとっての学びやすさ、生活のしやすさにつながる教育環境を整備する。 2 組織的なアセスメントを行った上で、支援を要する児童の教育的ニーズに応じた支援内容を検討し、保護者・児童と目標を共有しながら支援の工夫改善を図る。 3 特別支援コーディネーターを中心として関係機関と連携を進めるとともに、校内組織の機能化を図り、個に応じた支援の質の向上を図る。	○児童が安心して学べる環境づくりが進んだ。 ○校内のバリアフリー化や教材の工夫が進んでいる。 △すべての児童にとっての適切な支援の在り方を継続的に検討する。	・該当児童やその保護者が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりが進められている。 ・支援学級の児童とともに多くの児童が自然に関わり合い、共に学ぶ姿が見られ、特別支援教育が行き届いていることがうかがえる。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 P T A・地域の関係機関等との連携を強化する。	1 学校だよりや学級通信、ホームページ等で、学校の様子を発信するなど積極的な学校公開を行う。 2 P T Aや地域の人材や関係機関等との連携を強化し、学校行事や授業参観を促進する。	○学校の取組を積極的に発信し、保護者や地域の関心が高まった。 ○地域の人材を活用した活動が充実した。 △学校通信やホームページの内容をさらに充実させる工夫が必要。 △地域との連携を継続的なものにするための仕組みづくりが必要。	・地域の人材を活用した活動も充実しており、子どもたちが地域と関わりながら学べる環境が整っていると感じる。 ・地域との連携を継続的に続けていくための仕組みが整うことで、よりよい関係づくりができる考える。
次年度に向けた改善の方向性	「個別最適な学びと協働的な学びの両立」を軸に、授業の質向上、児童の主体性の育成、安全・安心な環境づくり、支援体制の強化、地域との連携を進めていく。授業では、「わかる・できる学び」を充実させ、探究的な学びや ICT 活用を促進。振り返りを通じた学びの定着を図っていく。異年齢活動の充実や、児童の変化に気づく体制を整え、安心できる環境を構築。特別支援教育の質を高め、関係機関との連携を強化していく。さらに、学校の情報発信を充実させ、地域とのつながりを深めていく。			